

4. ベクトル束の接続と曲率

曲率の定義

M を可微分多様体とし, $\pi: E \rightarrow M$ をその上の C^∞ 級ベクトル束とする. E の C^∞ 級切断全体を $\Gamma(E)$ で表す. E 上の接続

$$D: \Gamma(E) \rightarrow \Gamma(T^*M \otimes E)$$

が与えられているとする. このとき, 線形写像

$$\hat{D}: \Gamma(T^*M \otimes E) \rightarrow \Gamma(\wedge^2 T^*M \otimes E)$$

で, Leibniz の規則

$$\hat{D}(\theta \otimes s) = d\theta \otimes s - \theta \wedge Ds$$

を満たすものが一意的に定まる.

切断 $s \in \Gamma(E)$ に対して

$$Ks = \hat{D}(Ds)$$

とおく. Ks の $x \in M$ における値は $s(x)$ のみによる. K を接続 D の曲率テンソルとよぶ. 曲率テンソルは M 上の C^∞ 級関数 f に対して

$$K(fs) = fKs$$

を満たす.

曲率の局所的な表示

接続を局所枠 $\{s_i\}$ に対して

$$Ds_i = \sum_j \omega_i^j \otimes s_j$$

と局所的に表示すると, 曲率テンソルは 2 次微分形式

$$\Omega_i^j = d\omega_i^j - \sum_k \omega_i^k \wedge \omega_k^j$$

を用いて

$$Ks_i = \sum_j \Omega_i^j \otimes s_j$$

と表される. これを行列 $\Omega = (\Omega_i^j)$, $\omega = (\omega_i^j)$ を用いて表示すると

$$\Omega = d\omega - \omega \wedge \omega$$

となる. 別の局所枠についての曲率テンソルの行列表示を Ω' とすると, 局所枠の変換行列を A として

$$\Omega' = A\Omega A^{-1}$$

が成立する.

曲率作用素

M 上の C^∞ 級ベクトル場 X, Y に対して, 曲率テンソルから線形写像

$$R(X, Y) : \Gamma(E) \longrightarrow \Gamma(E)$$

が $R(X, Y)s = (Ks)(X, Y)$ によって定まる. 局所的に $s \in \Gamma(E)$ を $s = \sum_i f^i s_i$ と表すと, $R(X, Y)$ の表示は

$$R(X, Y)s = \sum_{i,j} f^i \Omega_i^j(X, Y)s_j$$

で与えられる. $R(X, Y)$ を曲率作用素とよぶ. これは, 共変微分を用いて

$$R(X, Y) = \nabla_X \nabla_Y - \nabla_Y \nabla_X - \nabla_{[X, Y]}$$

とも表される.

Bianchi の等式

曲率テンソル Ω は Bianchi の等式

$$d\Omega = \omega \wedge \Omega - \Omega \wedge \omega$$

を満たす.